

学校の教育目標:いのちきらめく小原っ子の育成～「身につける」「つなぐ・ふり返る」「挑戦する」～

| 学校の教育目標 実現のための 喫緊の課題を 踏まえた 重点目標 | 重点目標に係る 目指すべき子どもの 姿となる 達成指標 | 達成指標を達成する または近づくための 重点的取組 ※到達像不要 | 重点的取組に係る 具体的な 取組指標 ※誰が、何を、どれくらいの頻度で | 担当 | 達成指標に対する 達成状況の確認 | | 改善方策 | 関係者 評価 ○/4点 | 意見等 | | | | | | | | | | | |
|---|--|---|---|-----------------------|---------------------|---|--|-------------------|--|----------------|---|---|--|-------------------------|----------|---|--|------------|--|--|
| | | | | | 自己 評価 | 達成状況(エビデンス) | | | | | | | | | | | | | | |
| <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">確かな学力の育成</p> | <p>【達成指標】 国東市調査において、全ての調査学年、調査教科において全国平均クリア。 令和元年度()は同一児童前年度) 1年生:国語+5.7 算数+2.1 2年生:国語+2.7(+6) 算数+17.2(+6.5) 3年生:国語-16.2(-8.7) 算数+2.7(-1.2) 4年生:国語+12.7(+3) 算数+10.9(+3.2) 理科+13.3 5年生:国語+11.6(+16.3) 算数+21.0(+13.2) 理科+8.7(+19) 6年生:国語+7.0(+10.7) 算数+11.3(+8.7) 理科+17.3(+10.0)</p> <p>【学期ごとの参考指標】 国語・算数の単元テストで達成目標値をクリアする割合を全学年80%以上にする。 【2学期の参考指標】 1年:国 90.0% 算 93.0% 2年:国 95.6% 算 94.8% 3年:国 84.5% 算 90.4% 4年:国 87.7% 算 81.2% 5年:国 94.0% 算 95.0% 6年:国 93.3% 算 95.9%</p> <p>平成30年度 1年:国 89.8% 算 95.8% 2年:国 75.2% 算 80.9% 3年:国 66.3% 算 87.4% 4年:国 91.5% 算 89.1% 5年:国 84.0% 算 79.7% 6年:国 94.9% 算 87.5%</p> | <p>学校 学習のめあて(課題)と学習の振り返り(まとめ)を設定する。</p> <p>考えを比べ、判断するための場を設定する。</p> <p>反復学習(読み・書き・計算)を徹底する。</p> <p>子どもと一緒に学習する時間をつくる。</p> <p>地域 学びの教室・参観日への参加を通して積極的に学習支援を行う。</p> | <p>○全ての学級で、毎時間、主眼にそつためあて(課題)の提示し「35分主眼」の授業を実施。 ○全ての学級で、2単位時間に1回の振り返りの実施。 (主眼にそつ授業構想・展開による密度の濃い授業) (振り返り(まとめ)と次時のめあて(課題)の連続性)</p> <p>○全ての学級で、毎時間、「30秒サイレンス」「ドントリボイス」の意図を踏まえた指導を実施。 <思考を促したり整理したりする授業展開・発問・板書></p> <p>○全ての学級で、毎日、「小原っ子生活の手引き」にそつた学習に取り組ませる。</p> <p>○保護者が、学期に2回の家庭学習強化週間で、宿題が終わった後のノートやプリントを確認し、カードに励ましのコメントを書く。</p> <p>地域の方が、 ①読み聞かせを実施する。(毎週水曜日) ②学びの教室指導を実施する。(年間40回以上) ③ゲストティーチャーとして支援する。(年間を通して全学級で) ・学校公開日に積極的に参加する。</p> | <p>教務主任を中心としたチームA</p> | <p>A</p> | <p>【国東市調査結果 全国平均との比較】 令和元年度()は同一児童前年度) 1年生:国語+5.7 算数+2.1 2年生:国語+2.7(+6) 算数+17.2(+6.5) 3年生:国語-16.2(-8.7) 算数+2.7(-1.2) 4年生:国語+12.7(+3) 算数+10.9(+3.2) 理科+13.3 5年生:国語+11.6(+16.3) 算数+21.0(+13.2) 理科+8.7(+19) 6年生:国語+7.0(+10.7) 算数+11.3(+8.7) 理科+17.3(+10.0)</p> <p>【考察】 目的や条件に応じて、「情報を整理する」「情報を選択する」ことが難しかったと考えられる。 また、大分県学力定着状況調査、全国学習者学力状況調査でも課題としてあげられた「条件に合わせる」ことも関連があると考えられる。 今回の調査では1年生の算数、3年生の国語で課題が見られたが、「目的に応じる」、「条件に合わせる」、「情報の整理」、「情報の選択」の力は、他の学年や他の教科でも同じような課題あると考えられる。</p> | <p>1. 授業改善 (1)授業の「はじまり」から「終わり」までを意識させる。 ①学習用具を準備する、気持ちを整えるなどの授業のスタートの意識 ②めあて・課題に向かってがんばる姿勢 ③見直し・ふり返りで、学習の進み具合、出来具合をたしかめる習慣 (2)45分間で、「わかる」から子どもが「できる」「身につける」までを意識した授業を行う。 2. 教育課程の見直し ・国語・算数において、課題が見られた単元を中心に小原小の「重点単元」として教育課程に位置づける。 3. その他の学力向上の取組 ・家庭で読書をする機会や自学の内容の充実させるために、週末の課題や家庭学習強化週間の課題の内容を共通理解する。</p> | <p>3.9</p> | <p>【総評】 ○いつも、どの学年でも準備が十分なされ授業されている。 ○きめ細かい指導の結果が出ている。今の努力を継続してほしい。 ○学びの教室の参加率100%はすばらしい。</p> <p>【助言・要望】 ◆どの子も「わかる」「できる」に近づけるために、一斉に読む、キーワードをくり返す活動を多くしたらどうか。 ◆読書の量をこなすことも大事だが、内容をしっかり読んで感じる事が大事。他の子どもがどう感じたかを知る、理解できるようにしてほしい。 ◆学校支援事業での外部指導員をたくさん活用してほしい。講師も探して支援したい。 ◆落ちこぼれる子がでないように、みんなのレベルアップを期待したい。 ◆低学年では基礎・基本の反復学習をお願いしたい。高学年では創造力・創造力を高める学習指導をお願いしたい。</p> <p>【期待する子ども像】 ◎読書を楽しむ子 ◎正しい言葉(日本語)を使える子 ◎未来に生きる学力を身につけた子</p> | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | <p>豊かな心の育成</p> | <p>小原っ子アンケートで下記の項目の評価平均値を3.8以上にする。</p> <p>①乱暴な言葉を使ったり、人の悪口を言ったりしていない。 平成30年度年間平均3.71</p> <p>②進んで挨拶をしている。 平成30年度年間平均3.82</p> | <p>学校 相手意識をもち、「ひと」「もの」「こと」をふり返り、つなぐことができる子どもを育てる。</p> | <p>【児童会活動を中心に】児童会担当や学級担任が、 ①なかよし集会で学級単位でのあいさつを実施する。 ②月1回、なかよし集会で「ほんわかハート」の紹介をする。 ③なかよし集会で、たてわり班を活用し、全校話し合い活動(仮称:小原っ子タイム)、めあての振り返り活動を、それぞれ月に1回実施する。 ④学期に2回「みんなで遊ぼう集会」(ほんわか交流)を実施する。</p> <p>【学級経営を中心に】学級担任が、 ①「小原っ子生活の手引き」にそつた「振り返り」を日常的に指導する。</p> | <p>生活指導主任を中心としたチームB</p> | <p>A</p> | <p>【豊かな心の育成達成指標】 小原っ子アンケートで下記の項目の評価平均値を3.8以上にする。 ()は2学期の数値 【3学期 児童アンケートより】 ①乱暴な言葉を使ったり、人の悪口を言ったりしていない。 3.8/4点 (3.8) ②自分から挨拶をしている。 3.7/4点 (3.8)</p> <p>【考察】 ・「地区ごとの集団登校」「縦割り班での寒げいこ」、「縦割り班でのなわとび」、「縦割り班での清掃」等、で縦割り班(異年齢集団)を活用することが、豊かな心の育成に効果的であると考えられる。 ・取組を通して、期待に応えようとする子どもの姿は見えるが、子どもたちの自治的活動にまでは至っていない。 ・大きなトラブルはなく、みんなで仲良くすごしているが、その一方で、自分に自信がもてない子どもの姿もうかがえる</p> | <p>1. 異年齢集団の活用 ・縦割り班(異年齢集団)を活用し、子どもたち自身が考える場をつくる。例えば、「相手のことを考えるとはどういうことか」などのテーマを決めて、全校で話し合う場をつくる。 →3学期中に最低1回は実施し、次年度につなげる。 2. 食について ・給食週間を中心にして、好き嫌いをなく食べる取組を継続する。 3. 生活リズム、インターネット等について ・市教委のアンケートを活用して、保護者の協力を得ながら実態把握を再度行う。 4. 学校と家庭の連携について ・豊かな心と健康な体は密接な関係にあるとともに、学校と家庭が連携して取り組むことが必要になる。学校からのお願いとしての取組から生活面を中心にした各家庭で工夫できる取組を考える。(例えば、「わが家の目標」など) 5. アンケート項目の見直し ・子どもの自信が高まっているかを確かめられるようなアンケート項目を入れる。</p> | <p>3.9</p> | <p>【総評】 ○どの子もあいさつをよくする。素直な子、面倒見の良い子が多く、落ち着いたように感じる。 ○「子どもは未来からの留学生」。将来を生きる豊かさを身につけさせてほしい。 ○保護者も真剣に取り組め、健康な児童像が見えた。</p> <p>【助言・要望】 ◆子どもの活動で望ましい姿を見出し(見取り)、認め合う場を多くもつたらどうか。 ◆もう少し家庭での取組を充実しなければならないと感じた。 ◆同じようなトラブルがくり返されるときに、トラブルの根本はどこにあるのかを見極めることが大事だと感じた。 ◆大きな視野での体づくりが必要だと思う。いろんな運動に親しませるようになるとよいと思う。</p> <p>【期待する子ども像】 ◎けじめをつける子 ◎他の人の感じ方を理解し、尊重できる子。 ◎自分が言われて嫌なことは他の人にも絶対言わない子。 ◎自己肯定感をもつ子 ◎主体的に健康な体づくり、たくましい体づくりに取り組む子 ◎明るく、生き生きとした子 ◎やさしくする子、思いやりのある子 ◎将来を生きる豊かさを身につけた子 ◎元気の外で遊ぶ子 ◎しっかりと走れる、しっかりと寝る子 ◎体の柔軟性を高め、脚力の向上に努める子</p> | |
| | | | | | | | | | | | | <p>家庭 小原っ子マナーモードをもとにインターネットやゲームのきまりを守らせる。</p> | <p>○全教職員が、月1回、小原小「あったか・ほっと・にっこりアンケート」を実施し、子どもの実態把握と個別支援を実施する。 ○全教職員が、日常的に、子どもとあいさつをかわし、子どもをほめる。</p> | | | | | | | <p>○保護者が、ゲーム・テレビ(YouTubu含む)の時間について親子で話し合い、きまりをつつて守らせる。</p> |
| | | | | | | | | | | | | <p>地域 「気づき」「一声」で子どもを見守る。</p> | <p>地域の方が、 ①出会った時に挨拶や声かけ(褒める・注意する)をする。 ②地域行事への参加を呼びかける。</p> | | | | | | | |